真本信長公記リプレイ

怪我の功名が辻

千代

黄金十枚の馬

山内一豊

60シリーズとしてDOUBLE CHARGE3号に掲載され、好評のうちに完売した『信長公記』が、コマンドベーシックバージョンとして甦った。今回は信長から秀吉、家康へと続く天下の行く末を再現した追加シナリオも付属しており、より楽しみが広がった。
この記事では、最も旬なカップルである山内一豊と千代の目線から見た、信長編・秀吉編のリプレイをお届けする。

千代と一豊の 立身出世「双六」物語

画／うっかり

■作戦研究■

千代や、私は不吉な夢を見た。

まあ、どのような夢でしょう。

うむ、それがな。信長様の現状を映したような夢なのだ。

それは興味深い夢ですね。悪夢は人に聞かせると良いと言います。千代にもお聞かせ下さい一豊さま。

まだ信長様は濃尾にほとんどの兵を置き、ご家来衆と言えば京に滝川一益様がいる程度、徳川様もまだ濃尾から動いておられない状態だった。

周りの大名はどのようであったのでございましょう。

うむ。安芸に毛利、東山には武田、越後には上杉、北陸北畿に朝倉浅井という「織田家包囲網」が完璧に張られている状態だ。しかも武田と上杉は、お互いのつぶし合いの手を止めて、対信長様で意見を一致させている。

それは恐ろしゅうございますね。情勢はどのように動いたのですか。

公方方に着いた浅井がまず京を攻めた。それに呼応して信長様はとりあえず丹羽様を南畿に使わされた。そして東海に徳川様を派遣している間に、公方様を担ぐ毛利は京を目指して山陽に入ったのだ。

京はどうなりましたでしょう。

それが……滝川様がこともあろうに信長様から寝返り公方方の軍門にくだってしまったのだ!

まあ、それでは東西に展開可能な拠点である京を、信長様は失われてしまったのですね。

そうとも。大損失だ。しかも明智様は近江の支配を奪うことができなかった。

明智様ほどの方が……。

人生はサイの目次第、しょうがないときもあるのだ、千代。

しかしそれでは信長様の足場があまりにも危うく……。

よく分かるな、千代よ。信長様の支配は東海と濃尾のみ。VP2点の京を落としたのは痛かった。そうこうしているうちに公方様を擁した毛利が摂河泉に到着。京では浅井が迎えようとしている。上杉謙信が朝倉と歩調を合わせて北陸を蠕進していき、三方ヶ原では武田信玄が徳川様を敗退させた。なんとか摂河泉の村木様が毛利元就を押さえたものの、近江で丹羽様池田様ともに大敗、北陸まで上った明智様も討ち死にと相成った……。元就の息子の輝元が公方様を京に入れ、信長様の野望は潰えたのだ……そこで目が覚めた。余談だが信玄も謙信も長生きに長生きを重ねよった。あれではもう100年あってもこの動乱の世は終わるまい。

なんと不吉な夢……。

であろう？　いやまったくこのような夢を見たことが知れたら私の首まで危ないわ。

何を仰いますやら一豊様!　これは滅多にない逆夢かもしれません。信長様の不吉な夢が現実とならないように、最善を考えるのも我らのお役目ではありませんか!

なるほど……。なぜに信長様がこのように追いつめられたかを分析すれば、いや、どうすれば天下を統一できるかが分かれば、私の次の戦での働きも違ったものになろう。

ええ。一国一城の主となる日も早くなりましょう。

◆　◆　◆

しかし、一体信長様の戦略のなにが悪かったというのだろう……。

それはやはり豊富な軍があっても、うまく動かせなかったところにあるのではないでしょうか。

ふむ。機動力か。道がなければ進軍が困難になる。北畿や山陰が取りにくいのも街道がつながっておらぬからだ。そし